黒田重雄　「春本番～富士山と桜～」　F6 （水彩）

＜作者コメント＞
山梨韮崎にある樹齢 300 年のエドヒガンザクラです。桜と富士は平凡な組合せですが、桜の幹と花に囲まれた富士山が面白く、作画にチャレンジしてみました。桜と富士山との遠近感、桜の花の色に気をつけて描きました

＜喜田コメント＞
北斎の富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」を思い出す構図です。富士山を取り囲むようの右に曲線を描いて伸びる桜の枝と花の表現はとてもは面白いですね。
本当によく描けています。桜の古木の幹の質感もよく描けています。何とも言えません。
まず、構図が良い上に桜花の描写もすばらしいのでそれだけでこの作品に惹かれます。
桜の古木の幹の質感もよく出ています。細部にまで気配りされた作品です。
黒田さんの個性がますます磨きがかかってきたと思います。
さらに良くするには、修正点は一つだけです。富士山をもっとシャープに描くこと。
富士山は古くより日本人の心、日本の象徴です。日本最高峰の剣が峰です。神の山を象徴するように描くとよいと思います。

筒井隆一
「アネモネコ」
F6 （水彩）

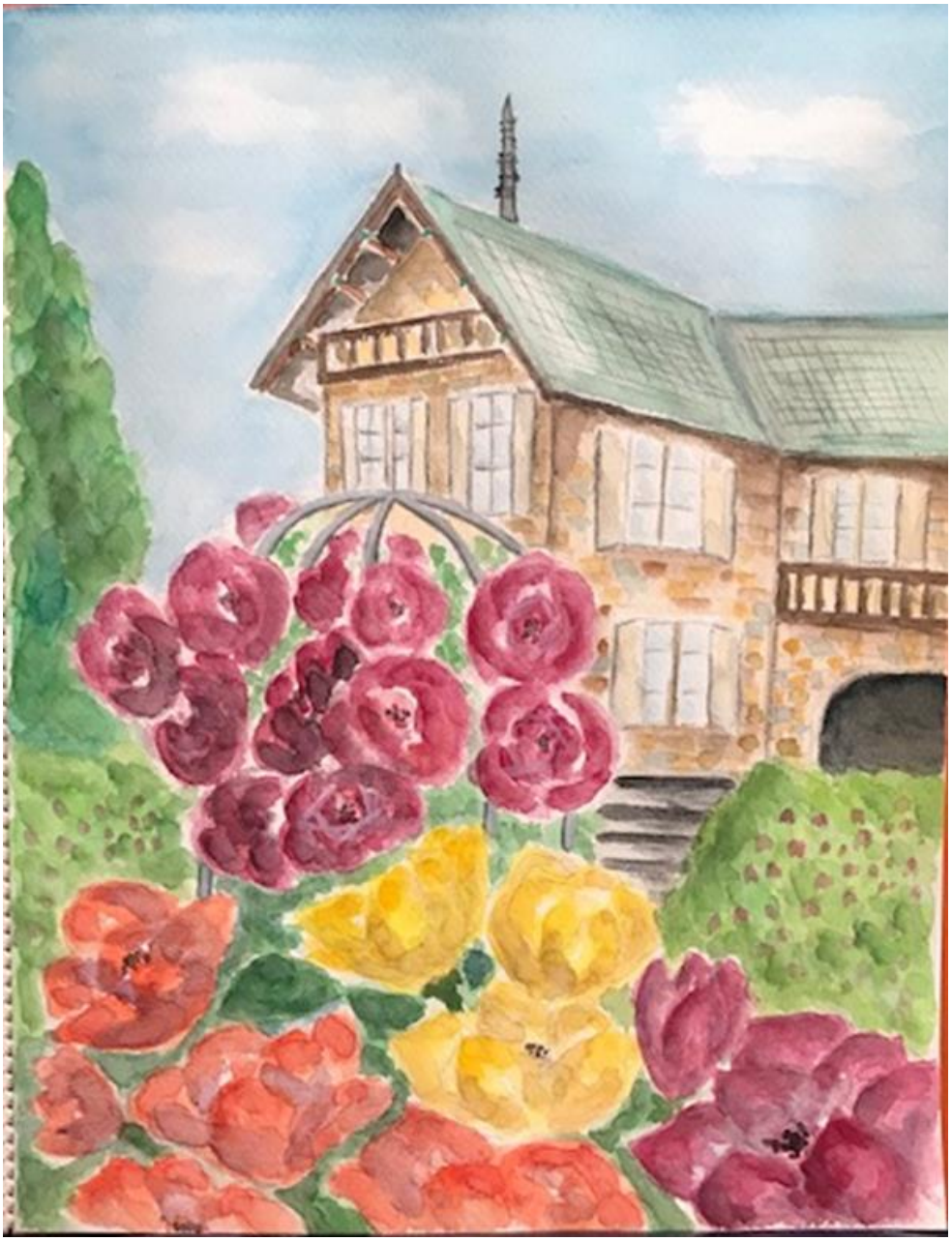
＜作者コメント＞
庭に咲き残ったアネモネの花と、友人からもらった猫のおもちゃとを、組合わせました。

＜喜田コメント＞
筒井さんの作品は面白いですね。私の知る限り、筒井さんは人間が堅物なのに、どうしてこんな面白い絵が描けるのか不思議です。今回の作品もアネモネの花・フクロウの絵のある花器・猫のおもちゃ・紫色の 2 段の敷布・背景の緑、これらの取り合わせが面白いと思います。
筒井さんの作品は 1 年前頃から一つのツツイズムが形成されたように固まってきましたね。
その時々の作品は毎回違いますが、根底に流れる個性が凝縮されてきていると思います。
このままどんどん描いてください。どんどん描いて、壁にぶつかって、壁をブレイクして、その先に新しいものを見つけて、貪欲に取り入れていく。作品がだんだん深くなってきます。
今はその第 1 段階だと思います。
修正点は壷の底辺当たりの「モヤモヤ」を不自然さがないようにしっかり描いてください。

竹前義博　「母の日　ピンクのアジサイ」　F6　（水彩）

＜作者コメント＞
母の日に、次男の奥さんからピンクのアジサイが届きました。沢山の花びら（植物的にはガク）が重なり合ってボリューム感があります。この表現にチャレンジしました。
４回ほど描いて、ようやく提出のアジサイになりました。

＜喜田コメント＞
母の日・ピンクのアジサイ。ピンクのカーネーションの代わりにピンクのアジサイを母に捧げるのですね。次男のお嫁さんの優しい気持ちが伝わってきます。
このアジサイは作者の意図が強く出ていて良いと思います。見事なアジサイ作品です。
大きな２輪のピンクのアジサイが主役です。作者の意図が明確過ぎるほど明確です。
房を両手で包むと、ふっくらとした花の容量感が伝わってくるほどよく描けています。
アジサイの茎は敢えて描かなかったのでしょうか。画面の下部を緑の葉で埋めてしまっても良いと思います。
改善点・修正点を述べます。
葉っぱが単調すぎます。よく描けているアジサイの房を生かすために、もっとよく葉っぱを観察して、多様な緑を丁寧に使い分けましょう。明るいところには明るい緑を、暗いところには暗い色を使いましょう。また、この作品の葉っぱはすべて同じ形・同じ色で面白くありません。葉の形は思い切って型破りな形を数枚入れて、変化の面白さを表現しましょう。
背景は主役を活かす背景にしなければなりません。もっと淡い色の背景が良いと思います。



武智康子
「5 月の旧古河庭園」
F6 （水彩）

＜作者コメント＞
ゴールデンウィークに旧古河庭園に行って来ました。バラが既に七割り程咲いていましたので、バラ園の下の方から、大輪のバラとその向こうのつるバラを通して煉瓦造りの建物を描きました。屋根は、欧風のスレートのような造りでした。
バラは、なかなか思うように描けませんでした。

＜喜田コメント＞
旧古河邸の「建物と薔薇」、絵画のモチーフによく描かれるところです。この作品、主役は「薔薇」でしょうね。古河邸の古くて重厚でお洒落な建物と 2 人主役でしょうか？
まず、主役は何か、その意識を持ちましょう。特に薔薇を大きく近景に描いたところがこの作品の特徴であり、最大の魅力です。とてもユニークな構図で感心しました。
薔薇の華やかさ、豪華さ、美しさが良く出ています。この構図を活かして、さらに作品を磨くには、もう少し近景（主役）の薔薇を丁寧に、時間をかけて描くべきです。
武智さんの作品の最大の魅力は骨太であるところです。どんどん描けば個性が磨かれます。

月川りき江　「自然豊かなドイツ」　24 cm x 27 cm　（新聞ちぎり絵）

＜作者コメント＞
スイス、パリについで、最後にドイツを描いてみました。広々とした森の中に家が多く、作るには大変苦労しました。（場所はドイツのどこかはしりません。）

＜喜田コメント＞
スイス、フランスに続いてのドイツですね。「ヨーロッパ・シリーズ第 3 弾」ということになりますね。今までのヨーロッパシリーズの中で一番よく描けているとおもいます。グランマモーゼスの「おばあさんの田舎」のような風景です。山と山に囲まれた小さな村の風景ですね。まず、色彩が豊かできれいです。主役である美しい中景（集落風景）を近景の草と遠景の山々がしっかり支えています。遠くの山々の表現も素晴らしいと思います。
ヨーロッパの村には必ず「教会」があります。教会は人々が日々の労働（農作業）をする心の拠り所です。この作品には教会の尖塔が見当たりません。どこかにいれたらよいですね。
いつも感じることですが、月川さんは緑の使い方が素晴らしいです。
遠くの青く霞む山とさらにその向こうの雪を冠るやまの表現（形と色彩）も素晴らしいです。
敢えて修正点を見つけるとすれば、近景の草の色を 1 ㎜濃くすると村落が浮き出てきます。

井上清彦　「図書館に続く木道」　Ｆ４　（水彩、色鉛筆）

＜作者コメント＞
陰影、濃淡が不足している。主役の木道の表現が難しかった。木道に人物を入れれば、良かった。描き終わっていろいろと反省がある。時間切れで描けない。

＜喜田コメント＞
締め切り日の午前 3 時まで頑張って作品を間に合わせる井上さんの努力と熱意にまず敬服します。この作品、井上流のタッチと色の配分、水彩と水性色鉛筆の使い分けなど良いと思います。何より素晴らしいのが構図です。木道が折れ曲がりながら、ずーっと先まで続いている感じが良く出ています。ツズラ折になった右の木製の手すりの造形がこの作品のポイントになす。左手に見える図書館の手前に居る 2 人のシルエット姿も作品によい効果を与えています。
本当はもう少し緑が濃いはずですが、これはこれで作品として問題ありません。
緑の中に存在する黄色い領域の新緑の 1 群も光を感じて魅力的ですね。
さて、この作品はとても面白く、観ていて飽きない魅力がありますが、なにしろ描き足りません。作者もコメントに書いてありますが、深い新緑を表現するにはもう少し濃淡や色の明暗を使って深い樹々を表現したいです。木々の幹はもう少し濃く、木道を歩く 2 人連れの添景人物も描きたい。

喜田祐三　「ブラスバザール広場（シンガポール）」　F20　（油彩）

＜作者コメント＞
赤道直下の国、シンガポールの懐かしい風景をもう一度、描きなおしています。
オーチャード通りにつながるブラスバザール広場は熱帯の太陽がじりじりと照りつけて、白く乾ききっています。
3 本の高いヤシの木の影が長く伸びて、道行く人たちや車や馬車を切り裂いて長く伸び、広場の向こうの白壁にまで伸びて屈折しています。
手前に見える黒いトンガリボウシの造形は背後にある建物の影です。作品の近景として影を利用しました。広場を行き交う馬車屋自動車や自転車や歩く人たちを童話の世界的に描いてみました。

以上